■支持率比較表

	項　　目	%の差 (Q3−Q5)	Q3.強化してほしいこと	Q5.過去大会の成果
1	移民社会の若い世代に沖縄への理解を深める	3%増	19%	16%
	ビジネス交流を促進する	3%増	5%	2%
2	世界各地の県人会同士の交流を深める	1%増	8%	7%
	観光地としての沖縄を PR する	1%増	7%	5%
	平和の大切さをアピールする	1%増	6%	5%
	海外の文化を沖縄県民へ紹介する	1%増	4%	3%
	その他	1%増	1%	0%
3	沖縄の伝統・文化・風土への理解を深める	0%	15%	15%
	移民の歴史への理解を深める	0%	4%	4%
4	世界のウチナーンチュ同士の交流を深める	−1%	14%	15%
	沖縄県民との交流を深める	−1%	11%	12%
5	移住者の労をねぎらう	−5%	3%	8%
	故郷への郷愁を満足させる	−5%	3%	8%
合　計（%）		−	101%	99%

【参考】アンケート実施状況（H16.6）

	送付数	回答数	回答率
県人会長	65	46	71%
民間大使	116	66	57%
元留学生・研修生	117	14	12%
不明	−	25	−
全体	298	151	51%

(2) 有識者ヒアリング

① 実施目的

ウチナーンチュの移民事情に詳しい大学教授やマスコミ関係者、さらに過去大会の関係者などから意見を聴き、今回大会の開催方針をはじめ大会運営や各種プログラムに反映させる。

② 実施時期

平成17年４月11日～平成17年５月11日

③ 対象者

22名（教育関係、マスコミ関係、観光業関係、広告代理店関係他）

④ ヒアリング結果

- 実施期間：平成17年４月６日～５月11日
- 調査機関：沖縄県観光商工部
- ヒアリング方法：インタビュー又はメール
- ヒアリング対象人数：22名
- ヒアリング対象分野：観光業関係者(4)、広告代理店関係者(5)、海外県人会関係者(7)、教育関係者(2)、メディア関係者(3)、前大会関係者(1)

ア 大会時期について

- 大会開催日は早めに決定し、早めに海外へ発信することが大事である。
- 那覇まつりなどの観光行事と連動させることは必要だが、修学旅行のシーズンと時期が重なる場合は、早めに関係機関と調整・連携する必要がある。

イ 大会のあり方について

- 大会後、何が残るのか、という視点が大切。
- 大会だけのつながりとしない。大会前はプレイベントでつながり、大会の４日間はアクションプランととらえ、大会以降においてもやりとりを継続すること。
- 大会をシンポジウム、会議、提言のみで終わらせない。お互いメリットとなるような自発的な行動を起こさせるように持って行く。
- 高齢の方々は大会を機会に沖縄への里帰りを大変楽しみにしている。
- 県主催イベントへの寄附は損金算入できるものの、企業側にとっては負担が大きい。
- 大会での料理は華美なものでなく沖縄そばなどでよい。

ウ 世代交代について

- 若い人へ繋げていける内容であるべき。ジュニア大使の創設など。
- ウチナーンチュ大会では沖縄県内・海外の子供が主体的に関われるプログラムがあるとよい。
- 日本語の話せない若い世代が関わりやすいプログラムを盛り込むとその層の参加者増も見込まれる。今まで仕事でこれなかった世代も子供に活躍の場がある大会なら参加

を希望するだろう。

- 若い世代はどの国でも県人会活動から距離を置いている場合が増えている。県人会活動の世代交代がうまくいっていない。
- ルーツを知らなければ、県系人社会は将来崩壊するだろう。

エ　教育分野への効果について

- 小中高校を巻き込んだ展開ができないか。
- 移民の歴史とか、ウチナーンチュ大会の意義を学習できるイベントが大切。
- 沖縄県は文化を通した人材育成の先進県となる可能性を秘めている。
- 競争ではなくイチャリバチョーデーの心で繋がり、お互いの長所を伸ばしていく教育ができる県である。お互いの長所を繋げて発展していくサイクルを作ることのできる先進的な場所となりえる。人はコミュニティの中で育つ。世界に広がるウチナーンチュネットワークの中で青少年を育てる。

オ　アイデンティティについて

- ウチナーンチュのアイデンティティがしっかりと根付いているからこそ国を超えて横の繋がり続いている。
- 海外のウチナーンチュはウチナーンチュであることに大変誇りを持っている。
- ウチナーンチュとしてのＤＮＡを揺さぶるような内容にしてほしい。
- 沖縄に誇りを持つことは夢を実現する原動力にもなる。

カ　イベントについて

- 協賛イベントでは各団体が独自に動け、大会終了後も持続的に続けることができるような仕組みを作ることが必要。
- 大会事務局主催で全てのイベントをするのではなく、市町村、民間企業、各団体等に呼びかけて関連イベントを開催してもらうと多岐にわたる県民が主体的に大会に関われてよい。その際事務局は助成金を出す、などの対応が考えられる。
- 自信を持って沖縄のネットワークを拡げていくためにも、沖縄のよさを再確認できるイベントが大切。沖縄というルーツに誇りを持てるとよい。
- １世、２世への感謝を示すセレモニーは、はずせないのではないか。

キ　沖縄の文化について

- エイサーは若い世代に大変人気がある。祭の時にエイサーに参加する子供が多いので、海外県人会等へパーランクーなどを送って欲しい。
- トラディションとクリエイション（伝統と創造）。伝統を守りながら未来に向かって創造していくことが大変重要である。
- 文化の継承には子供が文化を体験するという過程が大切である。

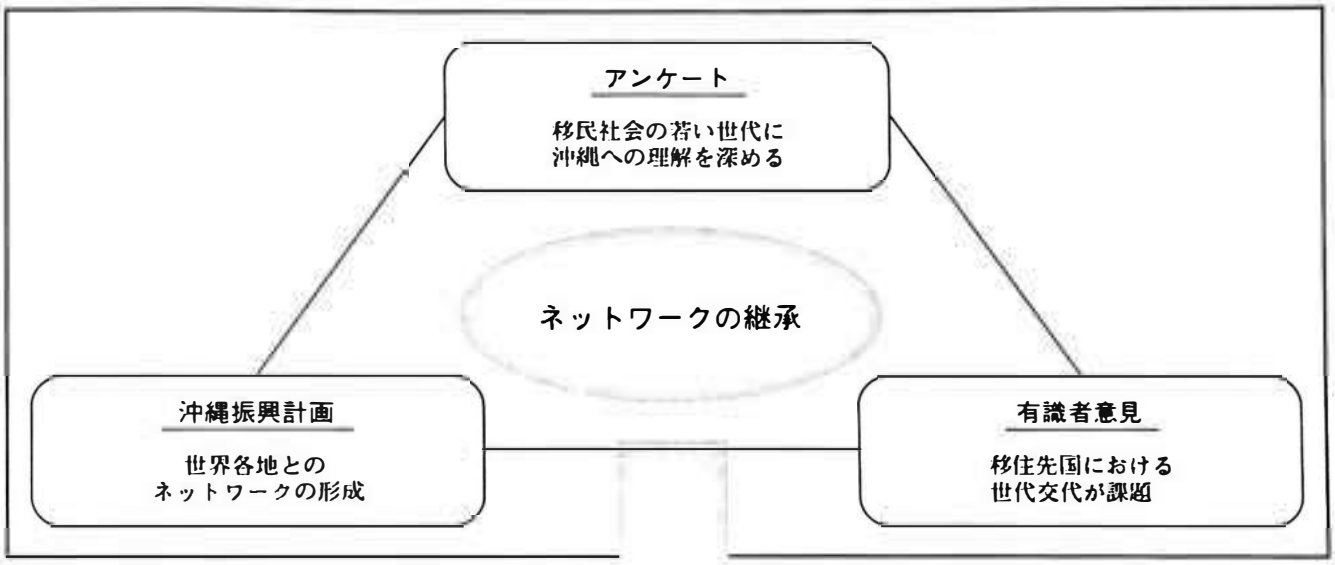
ク　ネットワークについて

- ネットワークは人と人との繋がりなので、継続することが最も大切である。
- ウチナーンチュという血縁のみならず、沖縄ファンを取り込んだ大会でもよい。ネットワークはどんどん外へ広がって発展していくものである
- ウチナーンチュのネットワークは閉鎖的なものでなく、血縁に関係なく、関心のある人をどんどん取り込む拡大的なものである。

ケ　ビジネスについて

- 海外県系人のやっている企業のデータベースがあればいい。海外県人会版商工会議所、海外ビジネスマンのリスト化など、整備できれば効果的である。
- 現状では海外との流通が弱い。今後のＷＵＢへの期待は大きい。

(3) 基本方針フロー図



第4回 世界のウチナーンチュ大会

大会目的

移住者世代の功績を踏まえ、ウチナーネットワークを担う次世代の育成を図る大会とし、世界に広がるウチナーネットワークの継承さらには深化・拡充を目指す。

基本方針

大会の目的である「ウチナーネットワークの継承、深化・拡充」の実現を図るため、以下の基本方針を定める。

①ウチナーネットワークの原点であるアイデンティティを確認する
②ウチナーネットワークの未来の担い手を育成する
③本県の各面における持続的な幅広い交流に資する

プログラム基本方針

①大会参加者が積極的に参加できる「参加・交流型」とする
②県民を巻き込んだ全県的な展開が図られる「展開型」とする
③各交流分野で、具体的な成果が出せる「成果型」とする

プログラム分野

- スポーツ
- 文化・芸能
- ネットワーク
- 大会式典
- 経済・産業
- 平和・国際貢献
- 教育・学術

2　大会概要

(1) 開催趣旨

本県は、わが国有数の移民県である。戦前・戦後を通じて多くの県民が海外に雄飛し、現在では海外に在住する県系人は北米・南米をはじめ、東南アジア、ヨーロッパ、アフリカ等、世界の国々に36万人を超えている。

１世から５世までを含めたこれらの多くの県系人たちは、移住先における困難の時代を、不屈の精神と持ち前のおおらかさで乗り越えて、堅実な歩みを続けてきた。そして今ではその移住先にしっかりと定着し、各国社会の構成員として政治、経済、文化、学術等の各方面で活躍、その国の開発、発展に寄与し、その勤勉さは高い評価を得て、信頼されるまでにいたっている。

わが国最大の人的財産である海外の県系人を本県を要として結びつける世界的なネットワークを形成する目的で、1990年（平成２年）８月に「世界のウチナーチュ大会」が開催された。このイベントは、世界各国の県系人や、その関係者等を結ぶ世界的なネットワークの核として「ウチナー民間大使」制度を発足させ、その活動を通じて、より強力な国際交流事業の展開を実現させた。

さらに1995年（平成７年）「第２回世界のウチナーンチュ大会」が開催され、「沖縄」を国際的視点から内外にアピールした。この年は太平洋戦争・沖縄戦集結50周年の節目にあたり、国際交流と平和の意義を考える記念事業として実施された。

2001年（平成13年）に６年ぶりに開催された第３回世界のウチナーンチュ大会では、前年に行われた九州・沖縄サミットに続き、世界に「沖縄」を一層アピールするとともに、ジュニアスタディツアーやワールド学生会議の実施など若者にも目を向ける大会となった。

そして、第４回世界のウチナーンチュ大会は、移住先国と沖縄の相互発展に尽力してきた移住世代と、これから未来を創造していく若い世代の双方に焦点をあて、ウチナーネットワークにおける世代間・地域間の相互理解と交流を深める機会とし、ネットワークの継承さらには拡大発展に資する大会とする。

(2) 大会の目的

移住者世代の功績を踏まえ、ウチナーネットワークを担う次世代の育成を図る大会とし、世界に広がるウチナーネットワークの継承さらには深化・拡充を目指す。

(3) 大会基本方針

大会の目的である「ウチナーネットワークの継承、深化・拡充」の実現を図るため、次の３つを基本方針とする。

①　ウチナーネットワークの原点であるアイデンティティを確認する。

②　ウチナーネットワークの未来の担い手を育成する。

③　本県の各面における将来に向けた持続的な幅広い交流に資する。

(4) プログラム基本方針

大会で実施する各種イベントプログラムについては、大会目的・基本方針に沿った内容とし、以下の点に留意する。

①　大会参加者が積極的に参加できるような「参加・交流型」とする。

②　県民を巻き込んだ全県的な展開が図られる「展開型」とする。

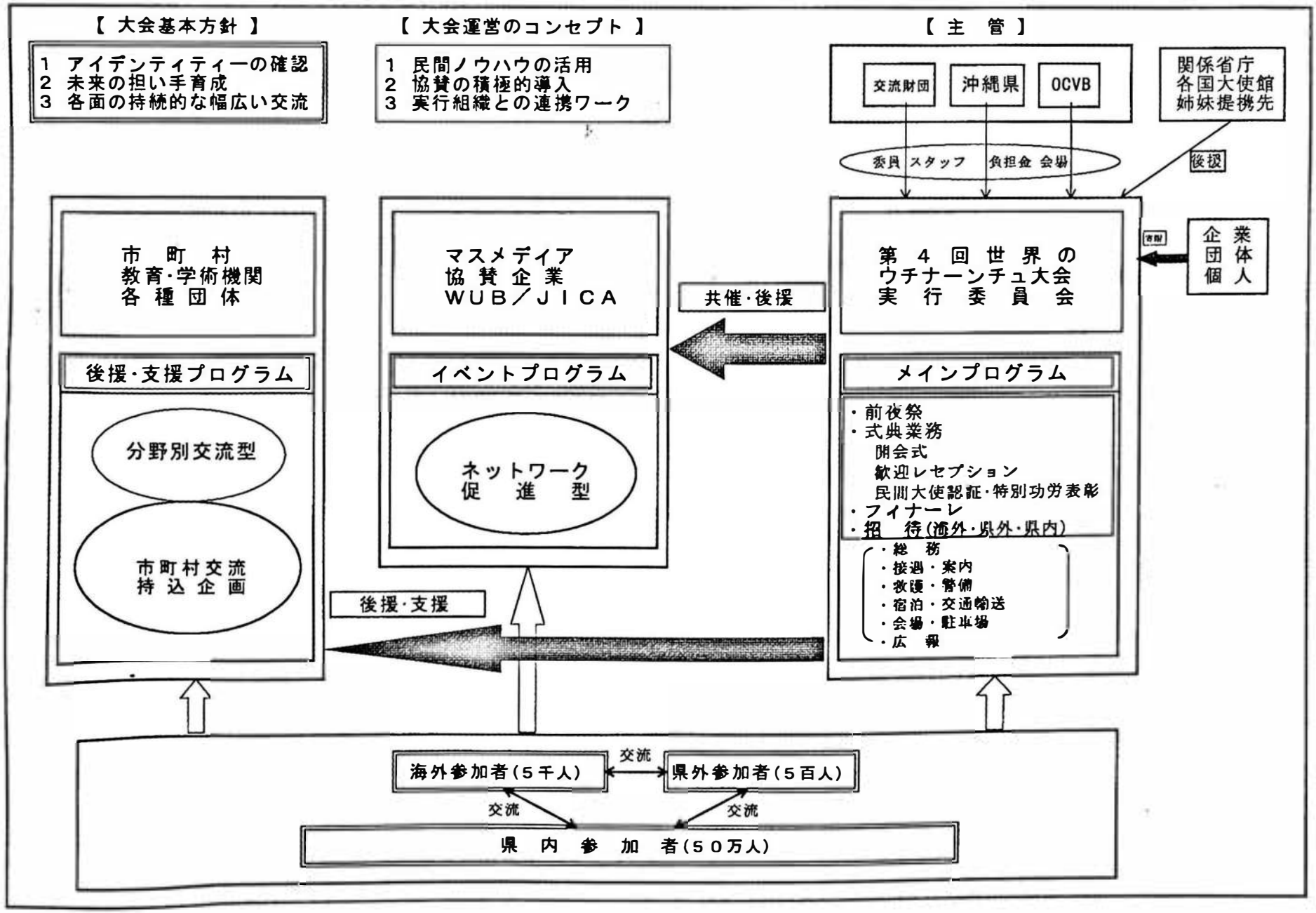
③　各交流分野で、具体的な成果が出せる「成果型」とする。

(5) 開催時期

前夜祭：平成18年10月11日（水）

本大会：平成18年10月12日（木）～15日（日）

(6) 大会基本スキーム


【 大会基本方針 】
1 アイデンティティーの確認
2 未来の担い手育成
3 各面の持続的な幅広い交流
【 大会運営のコンセプト 】
1 民間ノウハウの活用
2 協賛の積極的導入
3 実行組織との連携ワーク
【 主 管 】
交流財団
沖縄県
OCVB
関係省庁
各国大使館
姉妹提携先
委員 スタッフ 負担金 会場
後援
市 町 村
教育・学術機関
各 種 団 体
後援・支援プログラム
分野別交流型
市町村交流
持 込 企 画
マスメディア
協 賛 企 業
WUB／JICA
イベントプログラム
ネットワーク
促 進 型
共催・後援
第 4 回 世 界 の
ウチナーンチュ大会
実 行 委 員 会
寄附
企 業
団 体
個 人
メインプログラム
・前夜祭
・式典業務
閉会式
歓迎レセプション
民間大使認証・特別功労表彰
・フィナーレ
・招 待(海外・県外・県内)
・総 務
・接遇・案内
・救護・警備
・宿泊・交通輸送
・会場・駐車場
・広 報
後援・支援
海外参加者(5千人)
交流
県外参加者(5百人)
交流
交流
県 内 参 加 者(50万人)

(7) 大会組織図

主　　管

沖縄県
(財)沖縄県国際交流・人材育成財団
(財)沖縄観光コンベンションビューロー

実行組織

第4回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
会　　長：沖縄県知事
副 会 長：沖縄県議会議長
副 会 長：沖縄県副知事
副 会 長：沖縄県副知事
副 会 長：沖縄県出納長
副 会 長：沖縄県市長会会長
副 会 長：沖縄県町村会会長
副 会 長：沖縄県商工会議所連合会会長
副 会 長：(財)沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
副 会 長：(財)沖縄観光コンベンションビューロー理事長
副 会 長：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター所長
委　　員：経済界代表
国際交流団体代表
名誉領事等
マスコミ代表
その他関係団体代表
沖縄県警察本部長
沖縄県関係部局長
監　　事：沖縄県出納事務局長
沖縄県総務部財政統括監

幹 事 会

幹 事 長：沖縄県観光商工部観光交流統括監
副幹事長：(財)沖縄県国際交流・人材育成財団事務局長
副幹事長：(財)沖縄観光コンベンションビューロー事務局長
幹　　事：沖縄県議会事務局次長
幹　　事：沖縄県市長会事務局長
幹　　事：沖縄県町村会事務局長
幹　　事：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター次長
幹　　事：沖縄県商工会議所連合会事務局長
幹　　事：沖縄県警察本部警務部参事官兼警務課長
幹　　事：沖縄県関係部局統括監及び次長（11名）

後　　援

内閣府
総務省
外務省
独立行政法人国際協力機構
国際交流基金
(財)海外日系人協会
(社)日本外交協会
各国大使館
ハワイ州

協　　賛

航空会社
県内マスコミ各社

(8) イベントスケジュール

■プレイベント　7月29日～8月8日　ジュニアスタディーツアー（県内各地での体験学習とエイサー講習・演舞）

会場＼日時	10月10日（火）	10月11日（水）	10月12日（木）	10月13日（金）	10月14日（土）	10月15日（日）
沖縄県平和創造の森公園 平和の礎　他	平和体験・植樹ツアー 9:00～17:40					
国際通り		前夜祭パレード 17:15～20:00				
沖縄コンベンションセンター 展示場			第4回世界のウチナーンチュ大会 開会式 13:00～15:30			第4回世界のウチナーンチュ大会閉会式 17:30～19:20
沖縄コンベンションセンター 劇場					ミュージカル「海から豚がやってきた!!」 昼の部　14:00～16:15 夜の部　18:00～20:15	琉球交響楽団コンサート 15:00～16:30
沖縄コンベンションセンター 会議場A1					ワールドウチナーシンポジウム ・プロジェクトエスペランサ 10:00～12:30 ・県人会長・新ウチナー民間大使会議 14:00～16:30 ・表彰式・交流会 18:00～20:00	
沖縄コンベンションセンター 会議場A2			平和ワーク「世界と沖縄」展 13:00～18:00	平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～18:00	平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～18:00	平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～18:00
宜野湾海浜公園 多目的広場			一校一国運動展示ブース 平和ワーク「世界と沖縄」展 13:00～21:00 ウチナーチャンプルーフェスタ ・ワールドバザール 13:00～21:00 ・チャンプルー交流祭 13:00～21:00 ・文化体験ワークショップ	一校一国運動展示ブース 平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～21:00 ウチナーチャンプルーフェスタ ・ワールドバザール 10:00～21:00 ・チャンプルー交流祭 10:00～21:00 ・文化体験ワークショップ	一校一国運動展示ブース 平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～21:00 ウチナーチャンプルーフェスタ ・ワールドバザール 10:00～21:00 ・チャンプルー交流祭 10:00～21:00 ・文化体験ワークショップ	一校一国運動展示ブース 平和ワーク「世界と沖縄」展 10:00～21:00 ウチナーチャンプルーフェスタ ・ワールドバザール 10:00～21:00 ・チャンプルー交流祭 10:00～21:00 ・文化体験ワークショップ グランドフィナーレ 20:00～21:00
宜野湾市立体育館			ワールドビジネスフェア 13:00～21:00	ワールドビジネスフェア 10:00～21:00 ビジネスシンポジウム 1部　10:30～12:00 2部　13:30～16:00	ワールドビジネスフェア 10:00～21:00 ビジネスシンポジウム 3部　13:00～16:00	ワールドビジネスフェア 10:00～18:00
宜野湾市立グラウンド				国際親善サッカー大会 17:00～18:30	国際親善サッカー大会 9:00～17:20 サッカー教室　13:00～14:30	
宜野湾市民会館 大ホール					NHKのど自慢・予選会 13:00～18:00	NHKのど自慢・本選 12:15～13:00
国立劇場おきなわ				琉球古典芸能鑑賞会 昼の部　14:00～16:00 夜の部　18:30～20:30		
首里城公園	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50	世界のウチナーンチュ大会記念 「琉球王朝一舞いへの誘い」 11:00～11:50／14:00～14:50 16:00～16:50
県立武道館					空手道・古武道交流祭 9:30～17:30	空手道・古武道交流祭 スーパーセミナー　10:00～14:00
奥武山陸上競技場					国際親善ゲートボール大会 7:50～17:00	

(9) イベント概要

① プレイベント

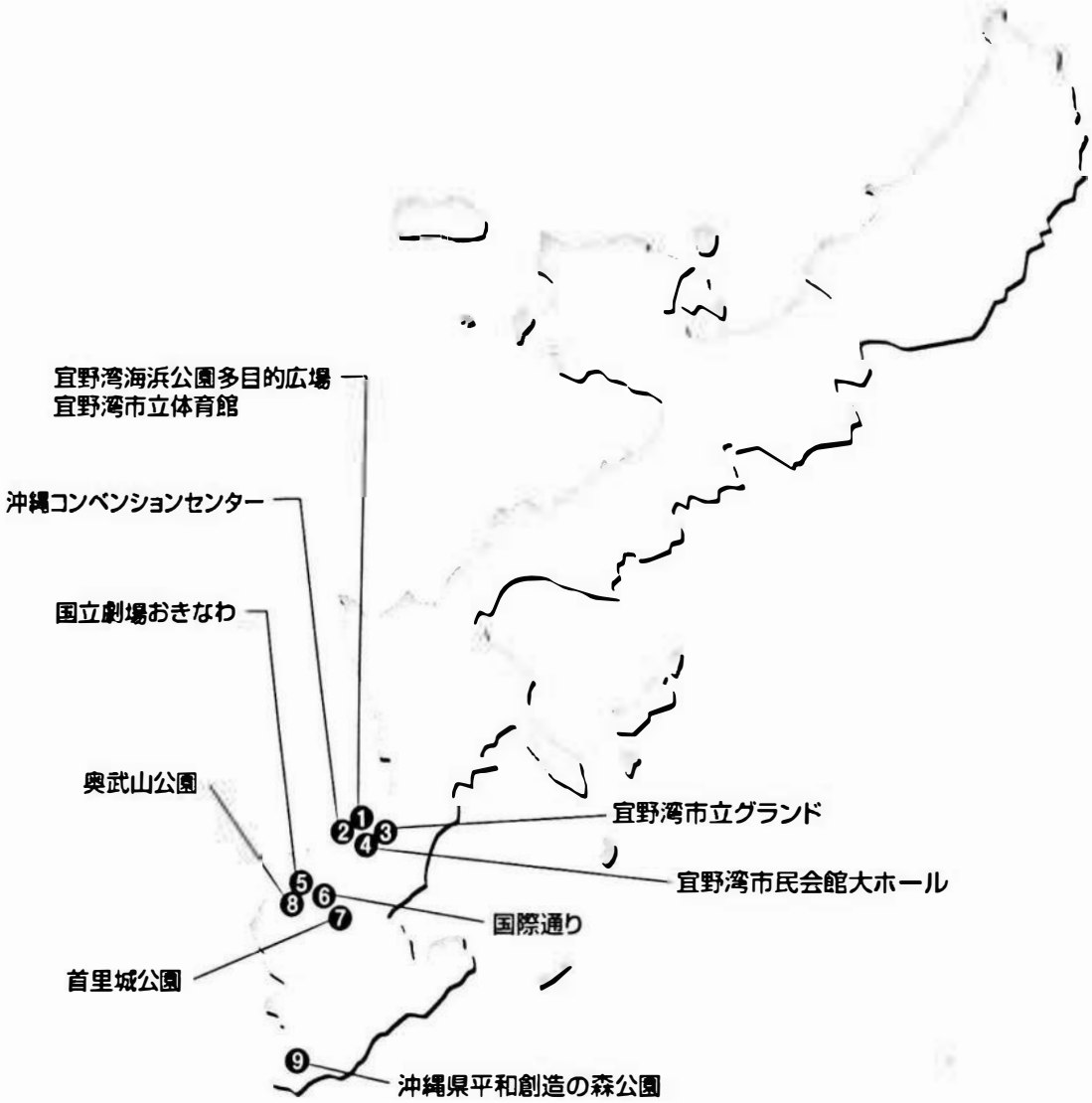
1	一校一国運動	目的	地域の国際化の推進、国際化に対応し得る人材及びウチナーネットワークの担い手となる次世代の育成を図る。
		内容	小・中・高校の児童生徒が移民の歴史や海外に在住するウチナーンチュについて学ぶ。
2	元2世通訳兵への感謝状贈呈	目的	沖縄から「平和と友愛」を世界へ発信するため、沖縄戦で多くの県民を壕から救い出し、戦後は沖縄の復興に多大な貢献をされた元2世通訳兵に感謝状を贈呈する。
		内容	元2世通訳の人道的な活動に対し、感謝状を贈呈する。
3	ジュニアスタディーツアー H18.7.29(土) ～8.8(火)	目的	海外県系人社会の若い世代に、ウチナーンチュアイデンティティの継承を図ると共に、ウチナーネットワークを深化・拡充させる。
		内容	海外県系人の子弟を招待し、沖縄の歴史、文化、自然、社会状況の体験学習と沖縄の児童生徒との交流を行う。

② 本イベント

1	平和体験・植樹ツアー H18.10.10(火)	目的	平和の尊さを考える機会とし、沖縄から世界へ向けて平和の発信を行う。
		内容	沖縄戦での日米両軍の激しい戦闘の跡を巡った後、記念植樹を行う。
2	前夜祭パレード H18.10.11(水)	目的	大会参加者の来県を歓迎し、大会参加者が県民と共に感動を分かち合い交流する場とする。
		内容	各国・各地域の参加者が民族衣装やカジュアルウェアで国際通りをパレードする。
3	開会式 H18.10.12(木)	目的	海外からの参加者を歓迎し、大会の幕開けを宣言する。
		内容	開会宣言、主催者あいさつ、来賓祝辞、アトラクション等
4	ウチナーチャンプルーフェスタ H18.10.12(木) ～15(日)	目的	様々なイベントを通して、大会参加者と県民との活発な交流と相互理解を深める。
		内容	世界各国の芸能、沖縄の伝統芸能、エイサー等のステージイベント及び体験教室を実施する。世界の物産展とともに大会参加国の料理が楽しめるコーナーを設ける。
5	ワールドウチナーシンポジウム H18.10.14(土)	目的	ウチナーネットワークの担い手となる次世代の育成を図るとともに、国際社会における沖縄及び世界の県系人の果たす役割などこれからのウチナーネットのあるべき姿を探る。
		内容	プロジェクトエスペランサ、県人会長・新ウチナー民間大使会議を行う。
6	ワールドビジネスフェア H18.10.12(木) ～15(日)	目的	世界各国をビジネスネットワークで結びつけ、経済交流を活発化させることにより、経済・産業分野における相互の持続的発展を図る。
		内容	海外進出を目指す県内企業と県内・国内の進出を目指す海外企業の物産展示と商談コーナーを設置する。 会場内で経済交流をテーマとしたシンポジウムを開催する。

7	ミュージカル「海から豚がやってきた!!」 H18.10.14(土)	目的	世界のウチナーンチュが郷里に寄せる想いやゆいまーる精神を表すミュージカルを上演する。
		内容	戦争で壊滅的な被害を受けた沖縄を救済するため、ハワイのウチナーンチュが550頭の豚を沖縄へ送り届けたという実話をもとにしたミュージカルを上演する。
8	琉球古典芸能鑑賞会 H18.10.13(金)	目的	大会参加者が県民と一緒になって伝統芸能を鑑賞し、楽しんでもらう場とする。
		内容	国立劇場おきなわとタイアップし、沖縄伝統芸能の公演を行う。
9	首里城公園「琉球王朝ー舞への誘い」 H18.10.9(月)～15(日)	目的	かつて繁栄を誇った琉球王朝の象徴である首里城で、沖縄の芸能文化を堪能してもらう。
		内容	首里城内の常設催事・琉球王朝「舞への誘い」とタイアップし実施する。
10	平和ワーク「世界と沖縄」展 H18.10.12(木)～15(日)	目的	さる大戦で多大な被害を受けた沖縄から平和を発信するプログラムとして実施する。
		内容	ＪＩＣＡ等と連携し国際貢献･協力事業の展示やワークショップを開催する。
11	空手道・古武道交流祭 H18.10.14(土)～15(日)	目的	世界各国及び県内外のカラテ愛好家の技術向上・人材育成とともに、相互交流を図る。
		内容	空手演武・少年少女演武・女性空手家演武・セミナー等を行う。
12	国際親善ゲートボール大会 H18.10.14(土)	目的	参加者相互の言語を超えたスポーツレクリエーションを通し親睦を深め、今後の交流の推進を図る。
		内容	海外チームと県内各市町村チームの参加による大会を行う。
13	国際親善サッカー大会 H18.10.14(土)	目的	サッカーを通し、より多くの人が国や世代を超えて友好と親善を深める。
		内容	県内・海外チームのトーナメント戦。ジュニアを対象としたサッカー教室の開催。
14	ＮＨＫのど自慢 H18.10.15(日)	目的	「ＮＨＫのど自慢」をＮＨＫ沖縄放送局、宜野湾市と共催で開催し、県民と海外のウチナーンチュが共に交流する。
		内容	宜野湾市民会館にて、14日に予選会、15日に本選を行う。
15	琉球交響楽団コンサート H18.10.15(日)	目的	ウチナーンチュが幼い頃から親しんできた沖縄のメロディーをクラシカルな音楽で楽しんでもらう。
		内容	沖縄のわらべ歌や島唄などをクラシックのアレンジによって広がりのあるサウンドとして演奏する。
16	閉会式 H18.10.15(日)	目的	第４回世界のウチナーンチュ大会を締めくくる式典
		内容	主催者あいさつ、大会メッセージ、アトラクション等
17	グランドフィナーレ H18.10.15(日)	目的	海外参加者と県民が一緒になって感動のフィナーレを迎える
		内容	県内アーティストによるライブ、主催者あいさつ、カチャーシー等

（10）大会会場図



❶ 宜野湾海浜公園多目的広場
宜野湾市立体育館
・一校一国運動
・ウチナーチャンプルーフェスタ
・平和ワーク「世界と沖縄」展
・グランドフィナーレ
・ワールドビジネスフェア

❷ 沖縄コンベンションセンター
［展示場・劇場］開会式・閉会式
［劇場］ミュージカル「海から豚がやってきた！」
・琉球交響楽団コンサート
［会議場A1］ワールドウチナーシンポジウム
［会議場A2］平和ワーク「世界と沖縄」展

❸ 宜野湾市立グラウンド
・国際親善サッカー

❹ 宜野湾市民会館大ホール
・NHKのど自慢

❺ 国立劇場おきなわ
・琉球古典芸能鑑賞会

❻ 国際通り
・前夜祭パレード

❼ 首里城公園
・世界のウチナーンチュ大会記念「琉球王朝 ―舞への誘い」

❽ 奥武山公園
［奥武山陸上競技場］国際親善ゲートボール大会
［県立武道館］空手道・古武道交流会

❾ 沖縄県平和創造の森公園
・平和体験・植樹ツアー

3　大会開催までの経緯

2005年（平成17年）

4月～5月　第4回大会の基本方針策定のため、海外県人会長や新ウチナー民間大使等へのアンケート、有識者ヒアリングなどを行う。

6月2日　第4回世界のウチナーンチュ大会第1回実行委員会準備幹事会を開催。

6月20日　第4回世界のウチナーンチュ大会実行委員会が発足。（第1回実行委員会）同事務局を観光商工部交流推進課内に設置。

6月26日　プレイヤーイベント　ミュージカル「海から豚がやってきた!!」ロサンゼルス公演。

7月29日　平成17年度元2世通訳兵実態調査事業企画コンペ説明会の開催。

8月6日～7日　プレイヤーイベント　ミュージカル「海から豚がやってきた!!」凱旋公演に宜野湾市内の小中高校生を招待。

8月8日　平成17年度元2世通訳兵実態調査事業企画コンペ・プレゼンテーション及び審査会の開催。

8月9日　平成17年度元2世通訳兵実態調査事業企画コンペ審査結果の通知。

8月11日　(株)沖縄計画機構と平成17年度元2世通訳兵実態調査事業委託契約を締結。

8月16日　県内公共交通機関、宿泊施設あてに大会への協力を依頼。（文書）

8月23日　沖縄ＮＧＯ活動推進協議会と平成17年度一校一国運動事業委託契約を締結。

10月4日　県教育委員会、ＪＩＣＡ沖縄、各市町村長あてに一校一国運動の後援を依頼（文書）

10月12日　1年前イベントとして残暦盤点灯式を実施し、県庁1Ｆ県民ホールに残暦盤を設置。

10月25日　第4回世界のウチナーンチュ大会イベント等企画コンペ説明会を開催。

10月27日　第1回市町村担当者説明会を開催。

11月1日　一校一国運動がスタート。

11月9日　第4回世界のウチナーンチュ大会イベント等企画コンペ企画書案を受理。

11月14日　第4回世界のウチナーンチュ大会イベント等企画コンペ・プレゼンテーション及び審査委員会の実施。

11月15日　第4回世界のウチナーンチュ大会イベント等企画コンペ審査結果の通知。

12月1日　協同組合沖縄産業計画と「第4回世界のウチナーンチュ大会平成17年度広報業務委託契約」を締結。

12月2日　(株)南西マイクロと「第4回世界のウチナーンチュ大会にかかる企画・総合アドバイザー業務委託契約」を締結。

12月19日　東町会館に第4回世界のウチナーンチュ大会歓迎広告を掲示。

2006年（平成18年）

1月15日　大会ホームページを開設。

1月16日　キャッチフレーズ及びロゴマークの募集開始。

1月24日　国際交流団体説明会の開催。

1月25日　大会パンフレット、プロモーションビデオの制作完了。

1月27日～2月6日　南米キャラバン（5名）派遣。

2月15日　県内ホテル・バス関係者等への説明会を開催。

2月23日　キャッチフレーズ及びロゴマーク選定委員会の開催。

3月17日　県内主要観光施設あてに海外参加者に対する施設利用の無料又は割引等の優遇措置を依頼（文書）。

3月24日　200日前イベントを開催。合わせて大会のロゴマーク・キャッチフレーズを披露。
第4回世界のウチナーンチュ大会持込企画（応援イベント）の募集開始。

4月6日　沖縄ＮＧＯ活動推進協議会と平成18年度一校一国運動事業委託契約を締結。

4月11日～12日　外務省、法務省、キューバ大使館、各在外日本国大使館・領事館あてに査証発給への協力を依頼（文書）及び東京出張（2名）。

4月14日　総務省ほか関係機関に大会の後援及び協賛を依頼（文書）。

4月18日　第3回幹事会を開催。

4月19日　平成17年度決算案の監査。
4月21日　第4回世界のウチナーンチュ大会公式ポスターの決定（3種類）。
4月25日　第3回実行委員会を開催。
4月26日　協同組合沖縄産業計画と「第4回世界のウチナーンチュ大会実施業務委託契約」を締結。
浦添市、浦添宜野湾漁業協同組合あてに駐車場用地の借用を申請（文書）。
5月1日　海外・国内県人会あてに大会参加者リストの提供を依頼（文書）。
平井雅氏と「第4回世界のウチナーンチュ大会にかかる企画・総合アドバイザー業務委託契約」を締結。
5月8日　第2回市町村担当者説明会を開催。
5月24日　海外県人会あてにウチナーネットワークの担い手及び海外功労者の推薦を依頼（文書）。
5月26日　外務省、内閣府、ＪＴＡあてに大会の後援・協賛を依頼（文書）。
5月30日　「第4回世界のウチナーンチュ大会」持込企画審査委員会を開催。
6月1日　「第4回世界のウチナーンチュ大会」持込企画審査結果の通知。
6月4日～13日　北米キャラバン（6名）派遣
6月5日　元2世通訳兵への感謝状の贈呈（ハワイ）。
6月7日　元2世通訳兵への感謝状の贈呈（ロサンゼルス）。
6月14日　海外参加者に対する施設利用の無料又は割引等の優遇措置を県内観光施設に追加依頼（文書）。
6月29日　海外県人会あてに新ウチナー民間大使の推薦を依頼（文書）。
7月14日　宜野湾市土地開発公社あてに駐車場用地の借用を申請（文書）。
7月29日～8月8日　ジュニアスタディーツアー2006の実施。
7月30日　第1回クリーンアップ美化活動を実施。
7月31日　第4回幹事会を開催。
8月4日　九州各県国際交流関係課あてに大会の案内状を送付。
8月6日　70日前イベントを開催。合わせて大会テーマソングを披露。
8月10日　第4回実行委員会を開催。第4回世界のウチナーンチュ大会実施本部を設置。
8月16日　派遣職員に係る各部局主管課長説明会を開催。
沖縄都市モノレール株式会社あてに実行委員への就任を依頼（文書）。
8月24日　各部局長あてに職員の派遣を依頼（文書）。
8月31日　海邦病院、日本赤十字社沖縄県支部あてに看護師の派遣を依頼（文書）。
9月4日　キューバ大使館、査証発給の協力を依頼（文書）。
9月11日　宜野湾消防署、宜野湾警察署、那覇警察署あてに大会への協力を依頼（文書）。
那覇西高等学校で大会をテーマに県政出前講座を実施（1回目）。
9月12日　那覇市各通り会あてに大会への協力を依頼（文書）。
9月16日　第1回ボランティア説明会を開催。
9月19日　県内観光施設、入国管理局、宿泊・輸送関係施設あてに参加者ワッペンの図柄を報告。
9月21日　(財)沖縄県国際交流・人材育成財団及び(財)沖縄観光コンベンションビューローあてに職員の派遣を依頼（文書）。
9月26日　派遣職員説明会を開催。
那覇西高等学校で大会をテーマに県政出前講座を実施（2回目）。
9月29日　沖縄総合事務局と平成18年度第4回世界のウチナーンチュ大会パンフレット等配布事業（ビジット・ジャパン・キャンペーン）の委託契約を締結。
10月4日　空港歓迎式（ブラジル）を実施。
10月7日　第2回クリーンアップ美化活動を実施。
10月8日　那覇まつり大綱挽きと連携し、大会参加者の大綱挽きへの参加。
10月9日　第2回ボランティア説明会を開催。
10月10日　空港歓迎式（ハワイ）を実施。

Ⅱ　実行組織・実施体制

1　実行組織

(1) 実行委員会

①　組織・体制

大会の主催団体として県、市長会、町村会等の行政関係機関及び経済、金融、女性、国際交流等の幅広い民間団体から構成される第４回世界のウチナーンチュ大会実行委員会が平成17年６月20日に設立された。

同委員会の設立と同日付けで県観光商工部交流推進課内に実行委員会事務局が設置され、大会開催に向けた本格的な準備作業が開始された。

②　概要

構成員：県、(財)沖縄県国際交流・人材育成財団、(財)沖縄観光コンベンションビューロー、県議会、沖縄県商工会議所連合会等から98名（当初98名、委員の追加及び削除各１名）

会　長：沖縄県知事

副会長：県議会議長他９名

委　員：(社)沖縄県工業連合会会長他84名

監　事：県出納事務局長、県総務部財政統括監

幹事会：県議会、市長会、町村会、県関係部局等21名

(2) 実行委員会事務局

①　組織・体制および陣容の変遷

平成17年６月20日実行委員会の設立と同日付けで県観光商工部交流推進課内に実行委員会事務局が設置された。

事務局は事務局長（交流推進課長兼務）１名、専任職員４名の計５名の陣容でスタートした。その後、(財) 沖縄県国際交流･人材育成財団から出向職員１名を受入れ、さらに企画・総合アドバイザー１名を配置。また事務局側との連絡・調整のため、協同組合沖縄産業計画から１名を受け入れた。平成18年４月には主査２名、主任１名、主事２名の計５名が増員され、沖縄県旅行業協同組合から１名を受け入れ、さらに交流推進課からの兼務職員２名、国際交流員２名、非常勤職員２名を含め、事務局は総数で20名の体制となった。(組織図は41頁)

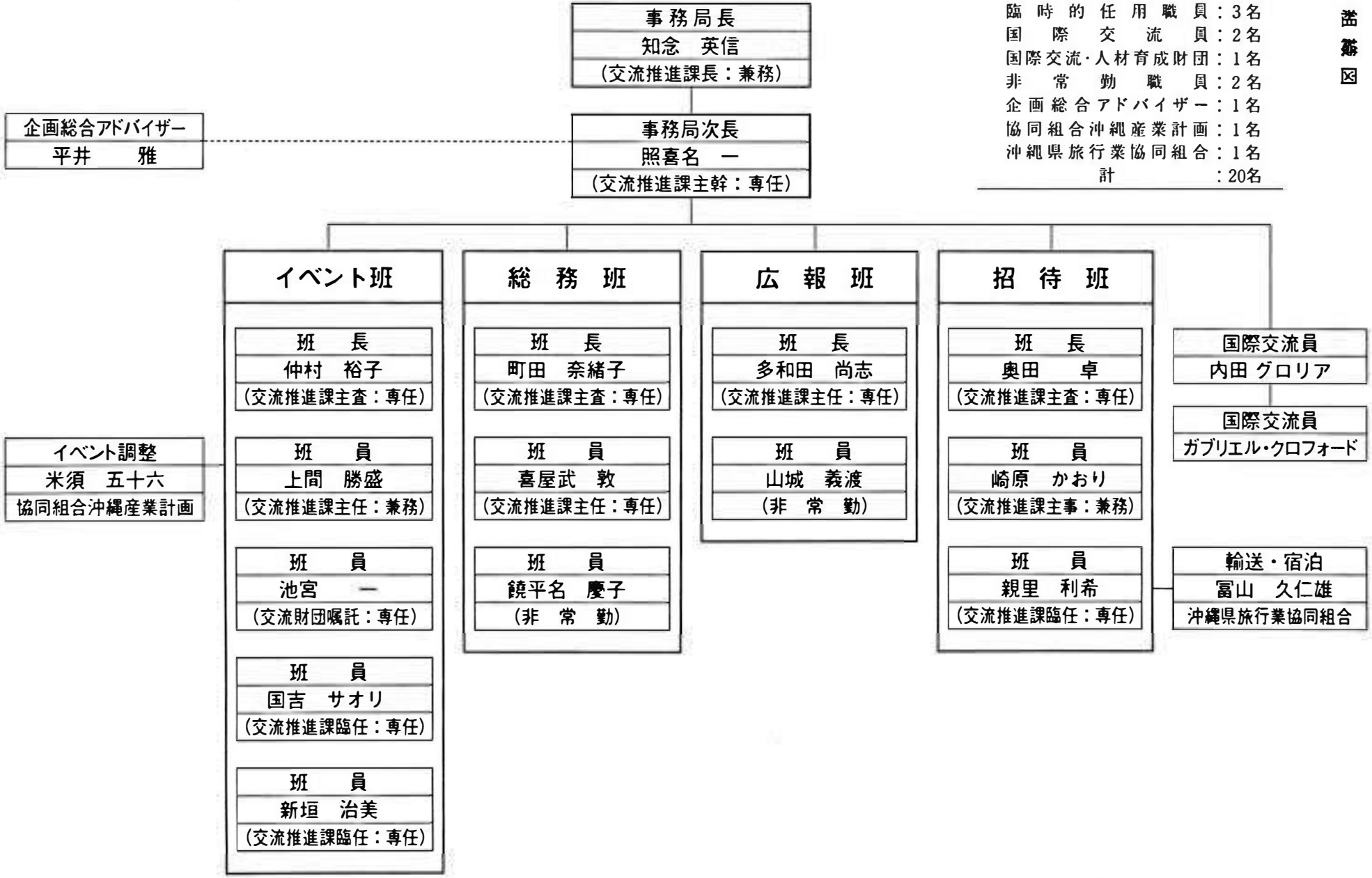
③　活動状況

幹事会･実行委員会	開催日	場所	主な議題
実行委員会設立準備会	H17. 6. 2	県庁５階 第１・第２会議室	1．実行委員会規約 2．事業実施に係る基本事項 3．平成17年度歳入歳出予算
実行委員会設立総会	H17. 6.20	沖縄ハーバービューホテル 彩海の間	
第２回 幹事会	H17.11.17	県庁８階 第１・第２会議室	1．基本コンセプト 2．事業計画
第２回 実行委員会	H17.11.28	沖縄ハーバービューホテル 彩海の間	
第３回 幹事会	H18. 4.18	県庁６階 第２特別会議室	1．実行委員会規約の一部改正 2．平成17年度決算 3．平成18年度事業計画及び予算
第３回 実行委員会	H18. 4.25	沖縄ハーバービューホテル 彩海の間	
第４回 幹事会	H18. 7.31	県庁６階 第２特別会議室	1．大会実施本部の設置
第４回 実行委員会	H18. 8.10	沖縄ハーバービューホテル 彩海の間	
第５回 幹事会	H19. 3.16	県庁６階 第２特別会議室	1．専決処分の承認 2．平成18年度決算 3．実行委員会解散時期の決定及び解散までの事務執行委任 4．実行委員会取得財産の処分等
第５回 実行委員会	H19. 3.23	沖縄ハーバービューホテル 白鳳の間	

■事務局組織図（平成18年10月）

② 組織図

事務局長（交流推進課長）：1名
交流推進課：8名
臨時的任用職員：3名
国際交流員：2名
国際交流・人材育成財団：1名
非常勤職員：2名
企画総合アドバイザー：1名
協同組合沖縄産業計画：1名
沖縄県旅行業協同組合：1名
計：20名



③ 事務局事業

ア 総務関連

(ア) 市町村説明会

大会の成功に向けて各市町村と意見や情報の交換等相互協力体制を構築するため、市町村担当者を対象に説明会を開催する。

a 第1回市町村説明会

(a) 日時 平成17年10月27日（木）
13：30～15：00

(b) 場所 県庁4F講堂

(c) 内容
- 第4回大会の概要について
- 市町村関連事業の展開について
- 質疑応答

b 第2回市町村説明会

(a) 日時 平成18年5月8日（月）
14：00～15：30

(b) 場所 県庁4F講堂

(c) 内容
- 第4回大会広報ビデオの上映
- 平成17年度事業報告
- 平成18年度事業計画
- 市町村事業計画調査
- 質疑応答

(イ) 国際交流団体説明会

大会の成功に向けて県内国際交流団体と意見や情報の交換等相互協力体制を構築するため、説明会を開催する。

(a) 日時 平成18年1月24日（火）
14：00～15：30

(b) 場所 県庁8F 第1・2会議室

(c) 内容
- 第4回大会の概要について
- 国際交流団体の取り組みについて
- 質疑応答

(ウ) ボランティア説明会

海外及び国内から大会に参加する方々を暖かく迎えることができるよう、通訳及び一般ボランティアを募集し、ボランティアを対象に説明会を開催する。

a 第1回ボランティア説明会

(a) 日時 平成18年9月16日（土）
15：00～16：30

(b) 場所 沖縄コンベンションセンター
会議場B1

(c) 内容
- 第4回大会概要説明
- ボランティアの役割について
- ボランティア配置計画

b 第2回ボランティア説明会

(a) 日時 平成18年10月9日（月）
17：00～18：30

(b) 場所 沖縄コンベンションセンター
会議場B1

(c) 内容
- 第4回大会概要説明
- ボランティアの役割について
- ボランティア配置計画

※基本的には第1回ボランティア説明会欠席者を対象とした。

(エ) クリーンアップ美化活動

海外及び国内から大会に参加する方々を暖かく迎え、交流がスムーズになされるよう会場周辺の「クリーンアップ美化活動」を実施し、同時に大会のPR及び機運の醸成に資する。

a 第1回クリーンアップ美化運動

(a) 実施時期 平成18年7月30日（日）

(b) 対象箇所
沖縄コンベンションセンター周辺

(c) 実施方法
「クリーン宜野湾市実行委員会」、「めんそーれ沖縄県民運動推進協議会」と「クリーン宜野湾」、「ALL OKINAWA クリーンアップ 2006 夏！」を合同共催し、大会開催に向けて清掃及びイベントを行った。

b 第2回クリーンアップ美化運動

(a) 実施時期 平成18年10月7日（土）

(b) 対象箇所 国際通り周辺

(c) 事業実施方法
JT沖縄支店主催の「ひろえば街が好きになる運動」に協力し、那覇まつり芸能パレード終了後、10月11日（水）に開催される前夜祭パレードに向けて国際通りを清掃した。また、道路・公共施設管理者や国、県、市町村に対して協力依頼を行った。

(オ) 飾花・緑化事業

大会主会場(沖縄コンベンションセンター)

の飾花については、社団法人沖縄県造園建設業協会の協力により、同協会が飾花計画書を作成し、施工を原材料費等の実費で請け負う方式で整備された。

a　飾花コンセプト

コンベンションセンターの優れたデザインの建物と一体となり、亜熱帯の沖縄在来種の花と緑の魅力を生かした展示を目指す。

b　飾花場所

沖縄コンベンションセンター駐車場内側の植栽帯、展示棟、劇場棟中庭及び建物の柱

c　飾花方法

(a)　展示棟入口及び劇場棟入口の柱に各1個ずつブーゲンビレアを配置する。

(b)　展示棟側中庭に中型鉢物を配置する。

(c)　中庭の池周りに8鉢の中型鉢物を配置する。

(d)　展示棟の柱と劇場棟の柱をつなぐ形でフクギによりヒンプンをイメージし、ソテツ、アダン、琉球石灰岩等沖縄の在来素材により沖縄の島をイメージする。

(e)　植樹帯はブッソウゲの生垣をバックにタコノキ、アダン等の高木、低木にオレンジ色の花を咲かせるランタナを配植し明るい空間とする。中央部には焼杉丸太に「メンソーレ」の文字を入れ、歓迎の意を表する。

イ　招待関連

(ア) 招待

海外をはじめ県内外から大会の目的、開催方針に沿った方々を大会へ招待することは重要な意義をもつことから、招待に係る基本的視点、招待の区分及び便宜供与等について、招待の考え方と招待の区分毎の招待者要綱を定めて招待業務を推進した。(資料編232頁参照)

a　基本的な視点

(a)　将来のウチナーネットワークの担い手としての次世代

(b)　ウチナーネットワークの拡充・発展に深く関わっている者

(c)　海外県系人社会に貢献した者

(d)　本県に縁のある関係機関、団体及び個人

b　招待の区分及び便宜供与

基本的視点に基づき招待者を特別招待者、ＶＩＰ招待者、一般招待者に区分し、大会に招待することにし、開閉開式における座席の確保と特別招待者には旅費の一部を負担することとした。

(a)　特別招待者

- 次世代代表及び海外功労者

将来のウチナーネットワークの担い手として次世代代表枠を初めて設けた。また、これまでの大会同様に海外功労者枠も設定し、併せて特別招待者として招待した。次世代代表及び海外功労者について、海外県人会、県内市町村、県内マスコミ等の推薦に基づいて実行委員会会長が決定した。

- 新認証の「新ウチナー民間大使」

第4回大会の開催を機に、新たに新ウチナー民間大使として28名の方を認証することを決定し、大会の開会式等で認証することにした。平成16年度の制度改正後、新たに認証された方を含めて特別招待者として招待した。

- 海外沖縄県人会の現会長

海外県人会の現会長が出席できない場合は、県人会を代表する者を代理出席者として特別招待した。

(b)　ＶＩＰ招待者

沖縄県・市町村の姉妹提携先の長、関係省庁大臣、関係国在日大使、国際交流機関の長等239名（海外、国内及び県内）の方々に大会への招待状を送付した。招待者名簿の作成にあたっては、本大会及び沖縄をアピールする意味から実際の参加可能性に関係なく、幅広く人選を行った。

(c)　一般招待者

再認された新ウチナー民間大使、海外留学生ＯＢ、海外マスコミ、国内県人会長、美ら島沖縄大使、後援・協賛団体、一校一国運動参加校等を一般招待者として招待した。

(イ) 記念品等

第4回世界のウチナーンチュ大会への参加記念品として、次の5つの点に配慮して選定

を行い、大会で実行委員会から参加者及び海外ＶＩＰ等の招待者に贈呈した。

- 県産品で沖縄県をＰＲできるものとする。
- 多くの方に喜ばれるものとする。
- 運搬しやすく壊れにくい品とする。
- 実用性のあるものとする。
- できる限り大会オリジナルとなるものとする。

a　大会参加記念品

大会参加記念品と提供された物品の袋詰め作業は、10月９日（月）にボランティアの協力を得て行った。

海外ＶＩＰ招待者へは大会参加記念品と合わせて琉球漆器や紅型テーブルセンターを贈呈した。（写真は13頁）

（写真は14頁）

商　品	規　格	対 象 者	記念品の特徴
紅型手提げ袋	390㎜×290㎜×140㎜	参加者全員	第４回大会オリジナルの手提げ袋。ジーンズ地に沖縄柄（万国津梁の鐘、三線、梯梧の組み合わせ）でブラック、ブルー、ピンク、イエローの４色を作製。
テーマソングＣＤ付きブックレット（写真集）	ＣＤ ブックレット64頁	参加者全員	第４回大会のテーマソングＣＤと沖縄のアイデンティティーを感じさせ、世界のウチナーンチュを元気づけるオリジナルブックレット。
大会ロゴ缶バッチ	Ｄ＝25㎜	参加者全員	第４回大会のロゴマークを配した円形の缶バッチ。

b　海外県人会感謝状贈呈及び招待者記念品

第４回世界のウチナーンチュ大会を記念して、海外県人会へこれまでの活動に対する感謝状を開会式で贈呈した。

また、海外県人会長、次世代代表、海外功労者、新ウチナー民間大使等の招待者には、招待者記念品を贈呈した。

（写真は13頁）

商　品	規　格	対 象 者	記念品の特徴
沖英辞典	Ａ５版　309頁	招待者	沖縄方言とその意味を英語で説明した辞典。大会オリジナルブックケース付き。

ウ　参加者の登録・管理及び輸送・宿泊関連

大会参加者の登録・管理及び輸送・宿泊業務について、業務量が多いことや旅行業者、交通機関、宿泊施設等との連絡調整を要することから平成18年４月28日付けで沖縄県旅行業協同組合（東良和理事長、８社で構成）に業務委託をした。

（ア）参加者の登録

招待者以外の参加者に関しては、海外県人会、国内県人会に対して大会参加の呼びかけや参加者名簿の作成を依頼し、大会事務局で参加者の登録後、海外参加者には大会ワッペン等を事前に送付した。

大会ワッペンは、海外参加者や招待者の区分が一目でわかるようにするとともに、かつ各方面で県民と交流を深めていただく意味で製作し配布した。海外の参加者には大会ワッペンと合わせて、滞在中の交通の便宜を図るためにバス無料乗車証も配布した。

また、イベントの日時、場所が簡単に確認できる折りたたみ式の大会プログラム（英語／日本語、スペイン語／ポルトガル語）を作製し便宜を図った。（写真は15頁）

（イ）参加者情報の管理

沖縄県旅行業協同組合から派遣された職員１名が大会事務局に常駐し、海外県人会等から送られてきた参加者名簿の入力漏れや重複チェック等の確認を行い、県人会や旅行社との連絡調整や県内各宿泊・輸送業者の予約情報とすりあわせるなど参加者情報の管理を

行った。

また、参加者情報に関する問い合わせの対応や歓迎行事を催す県内各市町村及び大会諸準備に係る関係機関へ参加者情報を提供した。

(ウ) 輸送・宿泊関係

沖縄県旅行業協同組合で空港ホテル間への送迎バスや荷物運搬用のトラックを約20台確保した。

大会参加者の宿泊については、沖縄県旅行業協同組合で約700人分の客室を確保したほか、那覇市をはじめ沖縄本島内のホテルや旅館で合計約1,900人分の客室を確保することができた。

また、海外旅行社等からの宿泊や定期観光バス等の問い合わせについて情報提供を行った。

(エ) 協力依頼

a　県内公共交通機関、宿泊施設等への協力依頼

(a)　平成17年8月16日付け世ウ委第10号により県内公共交通機関、宿泊施設あてに協力依頼の文書を送付した。

(b)　平成18年2月15日(水)10時30分から県庁4階講堂にて県内のバス、タクシーなどの輸送関係者、ホテルや旅館などの宿泊施設等の関係者を対象に説明会を開催した。

b　出入国手続等協力依頼

(a)　平成18年4月11日付け及び9月4日付け世ウ委第4号により外務省、法務省、キューバ大使館、在外日本大使館、領事館あてに円滑な査証発給及び入国審査の協力依頼の文書を送付した。

(b)　平成18年9月下旬には10月10日にハワイから那覇空港国際線ターミナルに到着する臨時便2機について、大会参加者の到着手続きが円滑にできるよう入国管理局、税関、検疫所、防疫所、空港警備派出所、那覇空港ビルディング㈱、旅客サービスを担った㈱ＪＡＬスカイ那覇と調整を行い、協力体制を整えた。

エ　広報関連

(ア) 広報イベント

県民に広く大会の開催を周知させるとともに、大会成功に向けた機運を醸成するため、広報イベントを実施した。

a　残暦盤の設置（1年前イベント）

(a)　日時　平成17年10月12日(水)
　　10：00～10：30

(b)　場所　県庁1階県民ホール

(c)　内容　• 主催者あいさつ
　　• 残暦盤点灯式

b　200日前イベント

(a)　日時　平成18年3月24日(金)
　　17：00～19：00

(b)　場所　パレットくもじ前広場

(c)　内容　• 主催者あいさつ
　　• 大会事業説明
　　• 大会ロゴマーク・キャッチフレーズ表彰式
　　• 200日前宣言
　　• アトラクション

c　70日前イベント

(a)　日時　平成18年8月6日(日)
　　15：00～16：00

(b)　場所　那覇市文化てんぶす館前広場

(c)　内容　• 主催者あいさつ
　　• テーマソング発表
　　• ジュニアスタディーツアー参加者によるエイサー披露

d　直前イベント

(a)　日時　平成18年10月8日(日)　16：00～

(b)　場所　那覇まつり大綱挽き会場

(c)　内容　• 大会参加者の大綱挽きへの参加
　　• 大会ＰＲ用桟敷席の設置

(イ) 海外キャラバン

大会開催に向けて、県系人が在住する主要国（都市）に海外キャラバン隊を派遣し、大会の意義や開催概要を説明、アピールすることにより、大会について改めて理解を深めてもらい、積極的な参加を呼びかけた。

また、大会開催準備業務に必要な事前調整を行うことによって大会業務の円滑な運営を図った。

a　南米キャラバン

(a)　日程（団員６名）

平成18年１月27日(金)～２月６日(日)

９泊11日

(b)　訪問国

南米４ヵ国（ペルー、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル）

(c)　業務内容

〇説明会

県人会役員、新ウチナー民間大使、県人会員、海外マスコミ等に対し、大会及びイベント概要を説明し、大会への参加・協力を呼びかけるとともに、大会の運営及び各イベントに対する意見を聞いた。

（説明会次第）

- 県人会長あいさつ
- 団長あいさつ
- 大会プロモーションビデオ上映
- 大会概要説明
- 質疑応答他

（参加者）

- ペルー：300名
- アルゼンチン：30名
- ボリビア（コロニアオキナワ）：22名
  〃　（サンタクルス）　：24名
- ブラジル：100名

〇大使館等関係機関訪問及び現地日系プレスへの広報活動

- ペルー：在ペルー日本大使館、ペルー日系人協会、日秘文化会館
- アルゼンチン：在アルゼンチン日本大使館、らぷらた報知
- ボリビア：在サンタクルス出張駐在官事務所

〇総　評

- ペルー沖縄県人移住100周年記念式典（平成18年１月29日開催）に合わせてキャラバンを行ったため、多くの方に大会をアピールすることができた。
- ジュニアスタディツアーへの要望が強く、「次世代の育成」という課題を改めて感じさせられた。

b　北米キャラバン

(a)　日程（団員６名）

平成18年６月４日(日)～13日(火)

８泊10日

(b)　訪問国

アメリカ（ホノルル、ロサンゼルス、アトランタ）、カナダ（バンクーバー）

(c)　業務内容

〇説明会

２ヵ国４ヵ所で説明会を開催し、参加者は概ね次のとおりであった。

（参加者）

- ホノルル：200名
- ロサンゼルス：100名
- アトランタ：120名
- バンクーバー：100名

〇大使館等関係機関訪問及び現地日系プレスへの広報活動

- ホノルル：在ホノルル総領事公邸、ハワイ州庁舎、ホノルル市庁舎、KZOO放送局（現地ラジオ局）
- アトランタ：在アトランタ総領事公邸
- バンクーバー：在バンクーバー総領事公邸、バンクーバー日本語学校、日系市民カナダ協会

〇総　評

- 知事自らが団長でキャラバン活動を行ったため、説明会に多くの方が参加し、実のある会議を開催することができた。
- イベント決定後に行ったため、具体的な質問が多く、参加への意欲が感じられた。

(ウ) 広報ツールの作成

a　パンフレット

大会ＰＲ用ツールとして南米キャラバンに間に合わせてパンフレット（４カ国語併記）を制作した。イベント決定後には新たに改訂版を制作した。

b　プロモーションビデオ

大会ＰＲ用ツールとして南米キャラバンに間に合わせてプロモーションビデオ（４カ国語版）を制作した。

c　大会ポスター

大会ＰＲ用ツールとしてロゴマーク、キャッチフレーズ決定後、公式ポスター（３種）を制作した。

d　ガイドブック

大会参加者に大会の詳細情報を提供するため、ガイドブック（4カ国語）を制作した。

(エ) その他広報

a　大会ホームページの開設

大会情報の提供、さらには問い合わせへの対応のため、ホームページ（4カ国語）を開設した。また、ホームページと合わせて事務局ブログを立ち上げ、日常の細かな情報を提供した。

b　大会シンボルマークの作成

今大会の目的である「ウチナーネットワークを担う次世代の育成」と「ウチナーネットワークの継承、深化・拡充」にふさわしいキャッチフレーズ及びロゴマークを一般公募した。

また、大会実行委員会では決定したキャッチフレーズとロゴマークを合わせ、大会シンボルマークを作成した。

c　大会テーマソングの作成

今大会の目的である「ウチナーネットワークを担う次世代の育成」と「ウチナーネットワークの継承、深化・拡充」にふさわしいテーマソングを作成するため、今大会の開会式・閉会式のアトラクションの演出を担当する平田大一氏にテーマソングの作成を依頼した。

オ　イベント関連

イベントについては、今大会の目的、大会基本方針、プログラム基本方針に沿ったイベントを実施するため、企画コンペを実施した。

(ア) 事業名

第4回世界のウチナーンチュ大会実施業務委託

(イ) 目　的

「第4回世界のウチナーンチュ大会」の趣旨目的、開催方針に沿ったイベントを実施し、また大会の意義を広く県内外に広報し積極的な参加の気運を醸成するため、企画コンペを行う。

(ウ) 委託項目

a　イベント事業に係わる企画・実施

(a)　メインプログラムの企画・実施

(b)　イベントプログラムの企画・実施

(c)　持込企画プログラムの検討・実施

(d)　大会運営

b　大会に係わる事業全体の広報に関する企画・実施

c　協賛の導入

(エ) 指名業者

県内6業者（沖縄コンベンション事業協同組合、協同組合沖縄産業計画、沖縄県広告協同組合、㈱アドスタッフ博報堂、㈱電通沖縄、㈲デンエイシャクラフト）

(オ) 審査委員会

委員長　松本　真一（沖縄県観光商工部観光交流統括監）

委　員　安仁屋政喬（沖縄県商工会議所連合会事務局長）

委　員　亀島　　靖（学識経験者）

委　員　宮城　清志（沖縄県教育次長）

委　員　知念　英信（第4回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局長）

(カ) スケジュール

- 平成17年10月25日（火）　企画コンペ説明会
- 平成17年11月9日（水）　企画書案提出
- 平成17年11月14日（月）　企画審査・プレゼンテーション
- 平成17年11月15日（火）　審査結果通知
- 平成17年12月1日（木）　H17広報業務委託契約を締結
- 平成18年4月25日（火）　第3回実行委員会でH18事業計画を承認
- 平成18年4月26日（水）　大会実施業務委託契約を締結

カ　翻訳関連

日本語を理解できない大会参加者に対し、円滑な情報提供を図るため、大会に関連する印刷物、広報物、会場サイン等を多言語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）で制作する

ための体制を整備し、大会事務局において進行を監理した。

(ア) 体制及び業務

広報班が中心となり、交流推進課国際交流員や翻訳・通訳業務受託業者との連携の下、以下の業務を行った。

a　日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の各言語における大会関連用語の定義と統一使用の徹底

b　印刷物等における、各言語間の意味・用語の整合性チェック

c　印刷物・会場サイン等における、各言語でのレイアウト・表現が適切でわかりやすいかどうかのチェック

d　通訳業務に関する用語統一の徹底

e　通訳業務の運営方針等へのアドバイス

f　その他

(イ) 用語統一の方針

海外からの参加者の混乱を避けるため、大会、各イベントおよび会場、組織等についての名称や用語を以下の方針にのっとって統一し、印刷物、会場サイン、通訳等においての統一使用を徹底した。

<基本方針>

a　海外からの参加者にとって、分かり易く簡潔で、混乱をきたさない表現とする。

b　名称の定義における基本言語は日本語とする。

c　公共機関による既定の用語や、これまでに印刷物等において公表された用語、看板等に掲示されている表現をできる限り踏襲する。

d　各言語間でニュアンスの差異が最小になるようつとめる。

※用語の統一については、前回大会までの経緯を踏まえた上で、交流推進課国際交流員、翻訳業者等と協議の上、大会事務局にて決定し、一覧データベースを作成して関係者に配布した。追加や修正についても適宜データベースを更新した。

(ウ) 多言語併記の方針

大会参加者・県民など制作物の配布対象者の便宜を考慮した上で、以下のパターンに照らして制作目的、配布対象、判型、ページ数等の制限に応じて併記する言語を決定した。

パターン①　日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の併記。レイアウトにおける並び順は原則としてこのとおりとする。

パターン②　パターン①と比して掲載スペースが少ない場合は、日本語と英語併記／スペイン語とポルトガル語併記の２種類に分ける。

パターン③　パターン①と比して掲載スペースが少なく、不特定多数への配布や露出を想定する場合などは、日本語・英語のみの併記とする。

パターン④　配布対象が限定される場合は、日本語と、英語・スペイン語・ポルトガル語のうちの１言語との２言語併記とする。

パターン⑤　配布対象が完全に限定される場合は、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語のいずれか１言語で表記する。

2　実施体制

(1) 実施本部

①　組織・体制

ア　基本的考え方

大会の規模が大きいこと及び国内外のＶＩＰ対応、海外県人会等との連携等が必要となることから、県職員を主体とした「第４回世界のウチナーンチュ大会実施本部」を、平成18年８月10日に設置した。

実施本部事務局は、部及び班で構成し、既存の実行委員会事務局の体制を踏まえた機能型の組織とした。指揮系統は本部長（知事）、副本部長（副知事ほか８名）、統括部長（観光商工部長）、統括次長（観光交流統括監）、事務局長（実行委員会事務局長）、接遇対策監（秘書課長）、事務局次長（１名）、部･班（４部８班）とした。

前回大会では総務部の中に組み込まれていた広報関連業務を広報部として独立させ、広報部長として県広報課主幹を配置し、マスコミへの対応を広報課と連携して行った。

イ　組織図、動員計画等（50頁参照）

ウ　動員体制について

各部長・班長については、主に事務局及び交流推進課職員で対応し、その他班員については県各部局、教育庁、(財)沖縄県国際交流・人材育成財団、(財) 沖縄観光コンベンションビューローの職員を動員した。ただし、接遇班接伴係員については、ＶＩＰの接遇であるため、課長クラスを充てた。

大会開催期間中の動員数及び大会前に配置された空港インフォメーション係員数を合わせた動員総数（延べ人数）は502名となった。

ボランティアでは通訳ボランティアに280名、一般ボランティアとして111名が大会の運営に協力した。

②　総合案内

大会の総合的窓口として沖縄コンベンションセンター劇場棟入口近くに総合案内所を設置し、各種情報の提供、拾得物・遺失物の管理・届出、車イスの貸し出しなどを行い、スムーズな大会運営を図った。

ア　拾得物・遺失物

総合案内所において、それぞれ拾得物台帳・遺失物台帳を作成し、拾得物・遺失物の管理を行った。

	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	計
拾得物届出件数	8	4	4	3	18
遺失物届出件数	18	13	20	41	92

イ　車イスの貸し出し

総合案内所において、沖縄コンベンションセンター備え付けの車イス（12台）の貸し出しを行い、車イス台帳により管理した。

	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	計
車イス貸出件数	4	0	8	6	18

第4回 世界のウチナーンチュ大会実施本部組織図

本部長 沖縄県知事 稲嶺 恵一

副本部長

- JICA沖縄国際センター所長 新井 博之
- 沖縄観光コンベンションビューロー会長 仲吉 朝尚
- 国際交流・人材育成財団理事長 山内 彰
- 商工会議所連合会会長代行 新垣 安二
- 町村会会長 宮城 篤実
- 市長会会長 翁長 雄志
- 出納長 新垣 幸子
- 副知事 嘉数 昇明
- 副知事 牧野 浩隆
- 県議会議長 仲里 利信

本部員

- 土木建築部長 首里 勇治
- 観光商工部長 宜名真盛男
- 農林水産部長 国吉 秀治
- 福祉保健部長 喜友名朝春
- 文化環境部長 伊佐嘉一郎
- 企画部長 上原 良幸
- 総務部長 上原 昭
- 知事公室長 花城 順孝
- 病院事業局長 知念 清
- 警察本部長 大平 修
- 企業局長 仲田 輝享
- 教育長 仲宗根用英

統括部長
沖縄県観光商工部長 宜名真盛男

統括次長
沖縄県観光交流統括監 松本 真一

事務局長
沖縄県観光商工部交流推進課長 知念 英信

事務局次長
沖縄県観光商工部交流推進課主幹 照喜名 一

接遇対策官
沖縄県知事公室秘書課長 屋宜 盛一

総務部長（兼） 照喜名 一

- 総務班長 町田奈緒子
- 副班長 喜屋武 敦

広報部長 知念 弘光

- 広報班長 多和田尚志
- 副班長 喜瀬 涼子

接遇部長 宜野座 葵

- 接遇班長 當間 保智
- 副班長 謝花よし乃
- 受付班長 奥田 卓
- 副班長 親里 利希
- 式典案内班長 宮城 直人
- 副班長 嶋原かおり

イベント部長 湧川 盛順

- 式典班長 仲村 裕子
- 副班長 各イベントディレクター
- イベント1班長 池宮 一
- 副班長 各イベントディレクター
- イベント2班長 上間 勝盛
- 副班長 各イベントディレクター

	10/6（金）	10/7（土）	10/8（日）	10/9（月）	10/10（火）	10/11（水）	10/12（木）	10/13（金）	10/14（土）	10/15（日）
総務係	0	0	0	0	0	0	11	12	10	[illegible]
通訳・翻訳係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救護係	0	0	0	0	0	0	3	5	5	3
食糧係	0	0	0	0	0	0	5	5	5	5
ボランティア係	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2
交通輸送係	0	0	0	0	0	0	16	16	16	16
広報係	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4
空港インフォメーション係	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0
接遇係	0	0	0	0	0	0	7	0	0	4
案内係	0	0	0	0	0	0	10	0	0	7
接伴係	0	0	0	0	0	0	20	0	0	16
受付係	0	0	0	0	0	0	23	0	0	14
クローク係	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1
会場案内係	0	0	0	0	0	0	17	0	0	10
会場整理係	0	0	0	0	0	0	16	0	0	9
会場連絡係	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
平和体験・植樹ツアー係	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
前夜祭パレード係	0	0	0	0	0	62	0	0	0	0
開会式係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
閉会式係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウチナーチャンプルーフェスタ係	0	0	0	0	0	0	6	12	16	12
平和ワーク「世界と沖縄」展係	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
ワールドビジネスフェア係	0	0	0	0	0	0	3	7	6	3
ウチナーシンポジウム係	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
ミュージカル「海から豚がやってきた」係	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
琉球交響楽団コンサート係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
琉球古典芸能鑑賞会係	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
国際親善サッカー大会係	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
国際親善ゲートボール大会係	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
空手道・古武道交流祭係	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
首里城公園琉球王朝「舞への誘い」係	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
NHKのど自慢係	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	2	2	2	2	5	64	152	66	80	127

③　交通・輸送・警備対策

ア　交通・輸送関係

(ア) 交通・輸送対策

大会参加者が式典や各イベントへの移動をスムーズに行えるよう那覇市内と沖縄コンベンションセンター、さらに沖縄コンベンションセンターと各会場（首里城公園、国立劇場おきなわ、宜野湾市民会館）とを結ぶシャトルバスを計６区間で運行した。

また、会場周辺の混雑を避けるため、会場と臨時駐車場との間に臨時シャトルバスを運行させた。

○大会シャトルバス一覧

区　分	運行日	運行時間	運行区間
参加者送迎	10月12日～10月15日	９：00～13：00 循環(運行間隔30分)	那覇市内臨時バス停⇔沖縄コンベンションセンター
		18：00～22：00 循環(運行間隔30分)	沖縄コンベンションセンター⇔那覇市内臨時バス停
琉球王朝－舞への誘い	10月12日～10月15日	①10：00→10：40 ②13：00→13：40 ③15：00→15：40	沖縄コンベンションセンター→首里城公園
		①13：20→14：30 ②16：20→17：30 ③18：20→19：30	首里城公園→県庁前駅（パレットくもじ前）→沖縄コンベンションセンター
琉球古典芸能鑑賞会	10月13日	①12：30→13：30 ②16：30→17：30	沖縄コンベンションセンター→国立劇場おきなわ
		①16：30→17：30 ②21：00→22：00	①国立劇場おきなわ→沖縄コンベンションセンター ②国立劇場おきなわ→県庁前駅（パレットくもじ前）
ＮＨＫのど自慢	10月15日	①10：30→11：30	沖縄コンベンションセンター→宜野湾市民会館
		②13：30→14：30	宜野湾市民会館→沖縄コンベンションセンター
開会式	10月12日	16：00→17：00	沖縄コンベンションセンター→県庁前駅（パレットくもじ前）
閉会式・グランドフィナーレ	10月15日	①19：30→20：30 ②21：30→22：30	沖縄コンベンションセンター→県庁前駅（パレットくもじ前）
臨時駐車場	10月12日～10月15日	８：30→21：30 循環(運行間隔15分)	沖縄コンベンションセンター→宜野湾市立体育館→第３臨時駐車場→第２臨時駐車場→第１臨時駐車場

(イ) 海外参加者の移動手段

海外参加者の沖縄コンベンションセンターへの移動は、大会シャトルバスの他、バス無料乗車証による路線バスも利用することができた。また、大型バスをチャーターで利用する団体が多いことから、１日目（開会式）と４日目（閉会式）はコンベンションセンター内の第２駐車場をバス専用として40台分の駐車スペースを確保して便宜を図った。

(ウ) 臨時駐車場

臨時駐車場については過去大会を参考とし、会場周辺において最大限の駐車スペースについて、可能な限りその確保に努めた。

最終的に会場周辺に約3,550台の駐車場

が確保できた。

a　臨時駐車場

- 宜野湾市土地開発公社所有地（第１臨時駐車場）　700台
- 宜野湾市土地開発公社所有地横（第２臨時駐車場）　2,000台
- 牧港漁港（第３臨時駐車場）　400台
- 宜野湾トロピカルビーチ駐車場（共同駐車場）　150台
- 宜野湾市民会館専用駐車場　300台

b　駐車場の区分・コンベンションセンター周辺駐車場に関して、コンベンションセンター施設内、宜野湾市立体育館（一部）を関係者用とし、その他の駐車場を一般駐車場とした。

c　交通誘導体制

宜野湾警察署の指導により、駐車場警備員の配置及び誘導体制を徹底した。

d　各駐車場の稼働率

コンベンションセンター周辺の各駐車場の稼働率は、初日、２日目は約50％で３日目、４日目はほぼ100％であった。特にフェストーネ横の宜野湾市土地開発公社所有地に集中した。

イ　警備関係

民間警備会社に業務を委託し、会場内及び臨時駐車場の警備及び交通誘導を行った。臨時駐車場は、アルバイト要員も動員して行った。また、宜野湾警察署においては、期間中の会場警備と交通規制を行った。

(ア) 警備実施会場

a　コンベンション会場

警備期間：10月11日～10月15日

配 置 先：駐車場
会場
夜間
アルバイト誘導員

(イ) 警備等の状況

宜野湾市海浜公園・多目的広場で開催するワールドバザールへの出店業者のため、10月11日～10月15日の間の夜間警備を実施し、期間中の事故等の問題は発生しなかった。

a　各駐車場警備

- １日目

フェストーネ敷地内の駐車場に、利用者以外の駐車車両があり、施設職員から指摘を受け、すぐに対処。フェストーネ入り口に常駐で警備員を配置した。

大型バスの入構があったため、歩行者の誘導に注意した。

- ２日目

早朝からタクシー利用の来場者があり、空席のタクシーが構内に並ぶ状況が発生したので並ぶ位置を第１駐車場横に固定した。

- ３日目

一般入場者のマイカー等がフェストーネ横駐車場に集中したため、200ｍの車両の列ができたので、宜野湾署からの指導のもと拡声器にて他の駐車場を案内した。

- ４日目

最終日と日曜日が重なり、駐車場は終日満車状態であった。車両と歩行者の事故防止に注意し誘導にあたった。また、宜野湾署員とパトカーの巡回で事故もなく終了した。

b　コンベンション会場

多目的広場会場には警察官詰め所を設置し、宜野湾警察署員による会場警備が実施された結果、混乱もなく全日程を終了することができた。

c　交通

宜野湾警察署員による交通規制の協力により、無事混乱もなく全日程を終了することができた。

(ウ) 警察実施本部の体制（宜野湾警察署）

a　コンベンション会場

警察官動員数（４日間延べ269人）

ウ　旅行業務関係

10月４日から10日、10月16日から18日にかけて那覇空港へ到着する参加者の迎えや出発する参加者へ見送りと荷物の積み下ろしやカート回収の補助等を行った。

大会期間中は、総合案内にて参加者情報や宿泊情報の問い合わせ、大会ワッペンの再交付等に対応した。

④ 接遇関係

ア ＶＩＰ接遇

ハワイ州ホノルル市長、駐日ベネズエラ・ボリバル共和国特命全権大使など海外及び国内来賓について、県内滞在中における接伴係員を配するとともに、必要に応じて車両の手配を行った。

開閉会式について、国際交流員等を通訳として配置し、控室ではボランティアの協力を得て湯茶接待を行い、記念品を贈呈した。開会式終了後には、知事招宴会場へ誘導した。

なお、県選出国会議員は国会日程の都合上、出席者は少なかった。

イ 受 付

開閉会式の受付は海外及び国内の招待者のみと簡素化し、言語別（英語、スペイン語、ポルトガル語）の通訳ボランティアを配置し円滑に対応するとともに、手荷物の一時預かりを行った。

また、開会式終了後には大会参加記念品の引換を行った。

ウ 式典案内

招待者の座席は、来賓等の指定席を特定するとともに、招待区分毎のブロック指定とし、到着順にご案内したところ、ほぼ空席無く整理することができた。

開会式の海外参加者の座席は、参加国、地域別に国旗等を付けた風船を掲げた他、国別に通訳ボランティアを配置して対応した。国内参加者については、第２会場（劇場）へ案内した。

閉会式は、招待者以外は自由席とし、参加者同士が自由に交流を図れるようにし、可能な限り県民の方も入場をさせた。閉式後には参加者をグランドフィナーレ会場である多目的広場へ誘導した。

⑤ 救護対策

救急処置及び急病等の対応に当たる救護班員（看護師）の配置については、医療法人球陽会海邦病院及び日本赤十字社沖縄県支部の協力をいただいた。

大会のメイン会場である沖縄コンベンションセンターの救護体制に関しては、会場から最も近くに位置する海邦病院に看護師の派遣を依頼した。大会期間中、展示棟内に救護所本部、多目的広場（ワールドバザール会場）に救護所を設置し、救護所本部に１名、救護所に２名の看護師を配置し、国際親善サッカー大会が開催された宜野湾市立グラウンドに１名の看護師を配置した。

国際親善ゲートボール大会や空手道・古武道交流祭が開催された奥武山運動公園における救護班員の配置に関しては、沖縄赤十字病院に依頼した。

奥武山運動公園には看護師２名を配置したほか、救急時の患者の搬送等の事態に備えて救護車１台、運転者１名を配置した。

期間中の患者処理状況については、下記のとおりである。

	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	計
患者処置人数	8	2	10	16	36
うち病院移送件数	0	0	0	0	0
うち入院件数	0	0	0	0	0

⑥ 会場設営（サイン計画）

サイン計画に関しては、第３回大会を参考にし、統一したデザインプランで会場設営を行った。また、言語表記に関しては一部を除いて４カ国語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語）で表記した。

制作物

- メインゲートタイトル看板（英文字表記）
- メインゲートタイトル看板（日本語表記）
- サブゲート看板
- 奥武山運動公園入口看板（アーチ）
- 多目的広場エアーアーチ
- 会場総合案内図立看板
- 各会場デイリースケジュール立看板（展示棟）
- 各会場デイリースケジュール立看板（劇場棟）
- 各会場デイリースケジュール立看板（会議棟）
- 受付案内看板
- オープニングセレモニー受付配置（海外国

別受付）
- オープニングセレモニー受付配置
（総合案内・国内招待受付・ＶＩＰ受付）
- 既設サイン利用１
- 既設サイン利用２
- 既設サイン利用３
- 展示棟入口ライン・大会マーク
- 展示棟入口フラッグ式サイン
- 会議棟入口ライン・大会マーク
- 会議棟入口フラッグ式サイン
- 会議棟内吊り看板
- 横断幕
- 誘導サイン
- 劇場棟入口ライン・大会マーク
- 展示棟入口フラッグ式サイン
- 国道58号コンベンション入口歩道橋横断幕
- 誘導立看板
（会場案内、駐車場まであと300m、駐車場マーク入り）
- 誘導サイン（タクシー乗り場）
- 誘導サイン（シャトルバス乗り場）
- シャトルバス乗り場サイン
- 駐車場誘導サイン（来賓）
- 駐車場誘導サイン（関係者）
- 駐車場誘導サイン（大会役員）
- 駐車場誘導サイン（出店業者）
- 駐車場誘導サイン（一般）
- 満車表示立看板
- シャトルバス横断幕
- シャトルバス・フロントサイン
- 会場内案内板
（警備員詰所、救護室、展示場本部、プレス室、関係者用ロッカー、県職員･ボランティアスタッフ休憩所、会議場本部）
- コインロッカー案内サイン
- 会場内案内板（テント吊り下げ）
（警備、救護、放送、ご休憩所、スタッフ弁当配布所、迷子、運転手休憩所、実施本部）

⑦ 広報活動

実施本部広報部広報班では、那覇空港内において大会参加者や関係者に対し、大会全般についての情報やホテル、観光に関する情報等の提供を行うとともに、大会参加者のトラブルや苦情に適宜対応するため、10月６日（金）から大会前日の10月11日（水）まで那覇空港国内線１Ｆ到着ロビーの那覇空港観光案内所内に空港インフォメーションデスクを設置した。

また、大会期間中には沖縄コンベンションセンター展示棟内にプレス室を設置し、プレスリリースの提供やマスコミ対応などを行った。